

国際交流のご報告

香港の獅子会蔣翠棕中学との国際交流

7月1日(月)に、香港の獅子会蔣翠棕中学(Lions Clubs International Tseung Chui King College)から24名(教員2名・生徒22名)の研修訪問を、国際交流の一環として受け入れました。

獅子会蔣翠棕中学は中高一貫校であり今回は高校1・2年生に該当する生徒が日本の医療・福祉関係の現場見学のひとつとして本学へ訪問されました。当日は白子キャンパスにおいて薬学科の授業見学、看護学科の実習室見学、救急救命学科の救急車見学、学食体験などをしていただきました。学食では本学の学生とも自発的に懇談し、学生同士で国際交流をする場面も見られました。

2時間半という短い時間でしたが、日本の医療・福祉系総合大学の雰囲気を肌で感じていただけたかと思います。また、本学の学生にとっても貴重な国際交流になったのではと感じました。

＜国際交流センター＞



臨床工学科 ハワイ研修

医用工学部長 伊原 正

3月10日(日)～15日(金)臨床工学科の学生5名(1年生3名・3年生2名)を引率して、ハワイの医療施設の見学研修を行いました。内容は、①日本人救急救命室(ER)勤務看護師によるコロナ禍でのER業務の説明、②透析クリニック(US Renal Care)における透析患者のいる透析室、透析液を作る機械室の見学、質疑応答、③Castle Medical Center(200床の中規模病院)における集中治療室(ICU)の見学、④Hawaii Pacific University 医用生体工学科の見学、⑤ICU看護師による人工呼吸器の基本的講義・実習、⑥St. Luke Clinic(日本人旅行者のためのクリニック)の日本人院長先生によるアメリカの医療制度、医療の実状についての講義でした。



特に印象に残ったのは、ハワイの透析施設で管理栄養士の方から伺ったお話で、日本の透析施設では塩分摂取量を1日6g以内とされているものが、アメリカでは2g以内とのことでした。学生も人工呼吸器に関連した気管挿管の練習に熱心に取り組んでいました。また、「透析施設の医療スタッフの仕事に対するモチベーションはどのようなものか」、「体重の非常に大きな患者にはどのように対応しているか」など積極的に質問をしていました。臨床工学科では初めての海外研修でしたが、大変有意義な研修でした。

看護学部 ハワイ研修の報告会を終えて

看護学部 看護学科4年 氏平 梨乃

看護学部主催のハワイ研修が3月9日(土)～14日(木)の日程で行われました。看護学部生14名と引率教員2名の計16名が研修に参加しました。現地で活躍する日本人ナースプラクティショナー(NP)の講義や、ホノルル近郊にある病院・ケア施設を見学し、ハワイでの医療体制や日本との違いなど多くのことを学びました。

そして4月30日(火)に看護学部においてハワイ研修報告会が開催され、多くの学生や教職員の方々にご参加いただきました。報告会では、NPの役割、多文化対応看護、終末期ケアについて、また、ハワイ大学シミュレーションセンターや米国透析センター、キャスルメディカルセンター等での視察を通しての学びを発表しました。私たちが実際にハワイで感じたことや楽しかったことも含め、自分たちの言葉で報告できたので、皆さんに海外研修の魅力について伝えられたのではないかと思います。私たちにとっても研修での学びを振り返るよい機会となりました。

研修を通して日本とは異なる看護の視点や医療制度、ケアシステムについて学ぶことができ、国際看護への関心がさらに深まりました。6日間という短い期間でしたが、自由時間には現地の人々と交流し、ハワイの文化にも触れることができ、今回思い切って参加してとても良かったと思います。国際看護、海外研修に興味がある方はぜひ参加してみてください。このような貴重な経験をさせていただき、研修を企画し、現地でも細やかにサポートしていただいた先生方に感謝いたします。

＜看護学部 国際交流委員会＞

